2019年3月26日

女子もスラックスOK　中学校の標準服

男子生徒はスラックス、女子生徒はスカートといった中学校の標準服（制服）の原則を、見直す動きが出ている。

東京都中野区と世田谷区は、新年度からすべての区立中学校で、女子のスラックス着用も認めることになった。いずれも、性同一性障害の生徒や、防寒、機能性からスラックスを選びたいという女子生徒のニーズに応えたもの。両区ともに夏服はスカート、冬服はスラックスと使い分けることもできる。

また、福岡市は、市立中学校の新たな標準服について、生徒自ら意見を出してデザインを検討する取り組みを進めている。同市は政令市で唯一、全市的な中学校の標準服制度を導入。運用は各校長の裁量に任されているが、大半で男子が学生服、女子がセーラー服を採用している。市教育委員会は、冬場のスカートの寒さや詰襟の動きにくさを訴える声や、性同一性障害の生徒への配慮の必要性などを受け、約70年ぶりとなる標準服の見直しを決めた。

市内各区7中学校の代表男女14人で構成する検討委員会で、市教育委員会が用意した4社のサンプルを実際に試着。生徒や保護者らの声を反映した標準服を、2020年度をめどに導入する予定だという。

関連リンク：http://gakken-juku.com/news_parents/

種郵便物認可）　日本教育新聞　日本教育新聞 2018.6.17

中学校の標準服見直し

福岡は一斉見直し、各地で議論

福岡市内にある全69校の市立中学校で、市教委の呼び掛けで一斉に標準服の見直し作業を進めている。これほどの規模での見直しは珍しい。見直しに至る一連の作業を参考に、各地で同様の見直しが広がる可能性がある。

見直しのきっかけの一つは、今から2年前の市議会質問だった。性的少数者である児童・生徒が服装を巡って苦痛を感じることがないよう求めた議員が、「再度、中学校の制服についてみんなで検討する段階に来ているのではないか」「校長会に任せている従来の立場から踏み出し、教委として責任を持って対応していただきたい」などと訴え、市教委の考えを聞いた。

この時点で市教委は、「柔軟に幅広く検討するよう各学校に指導する」と答弁するにとどめたが、事態は動いていく。昨年3月の市総合教育会議では、性的少数者を議題とした。市教委は、そうした児童・生徒への対応実績を説明した上で、「中学校の標準服については、来年度早々に検討委員会を立ち上げる」などと述べた。

同年6月には性的少数者団体の代表者をはじめ、校長、学識経験者などで構成する検討委員会が初会合を開き、標準服について話しをしたり、PTA役員や地域住民を交えた話し合いの場を設けたりして検討を進めている。来月半ばには結論を出すこととなっている。

どれほどの中学校が新しい標準服に切り替えるかはまだ見通せない。新しい標準服を定めたものの、既存の標準服のままでも構わない。私服登校とする選択肢も示されている。

2年前の市議会で、標準服問題について質問した尾花康広議員は、「大きく変わるかもしれない」と見る。見直しの背景には、性的少数者への対応をはじめ、着やすさ、体温調整のしやすさといった観点がある。尾花議員も、検討委員会も、そうした観点から見直しを求めた。

尾花議員によると、同じ政令指定都市の中では、学校ごとに標準服を見直す動きが出ている一方、市全体で見直す例は聞いたことがないという。政令指定都市のうち、北九州市でも新しい標準服を定める作業を進めている。こちらは、新しい標準服を着るかどうかは生徒側が判断する仕組みだ。

これまで、公立中学校の標準服の見直しは、卒業生をはじめとする関係者間の意見調整が難しいなどの事情から、一部にとどまってきた。

既存の制服に対し、見直しを求める声が各地の自治体議会で上がっている。福岡市や北九州市は、見直し方法の一例を示した。今後、そうした流れを加速させるのではないか。

（啓）

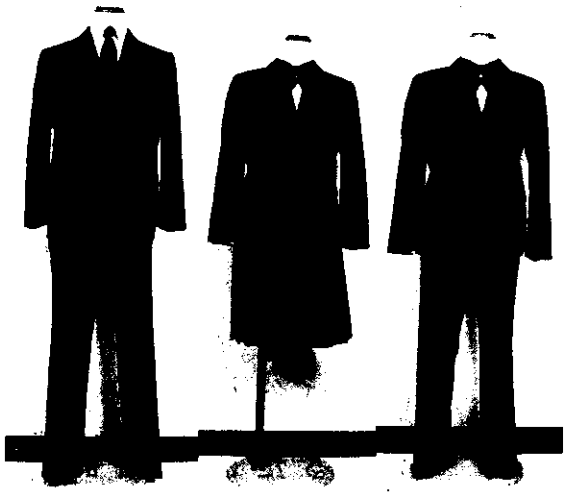
解説

※毎月第3週に掲載予定

各中学が標準服見直し

福岡市 国際化など背景に

福岡市内の各市立中学校が標準服の見直しを始める。市教委では、中学生などを交えて、新しい標準服の選定を進めてきた。来年4月に向け、各中学校は新しい標準服に切り替えるか、現行のままとするか、私服登校などとするかを決める。同市での標準服の変更は約70年ぶり。背景には、標準服の機能性の向上や国際化、性的マイノリティーへの配慮などがある。



新しい標準服はブレザー型で、スカートとスラックス、キュロットと組み合わせる。組み合わせは生徒が決める。リボンとネクタイは博多地区の特産の博多織とし、色は7種類ある。

名札は胸ポケットから出し入れ可能で、校外でのプライバシーを守るため工夫した。袖後部には反射材を付け、安全に配慮した。夏はワイシャツを着用する。

新しい標準服のデザインについて検討してきた委員会では「生徒誰もが安心して快適に学校生活を送ることができるとともに、特別な配慮がなくても、自分らしく学校生活を送ることができるもの」としている。

同市の標準服はこれまで男子が詰め襟、女子がセーラー服だった。

市教委では昨年6月から8回の検討委員会を実施。1、2月には中学生、3月には小・中学生が参加する検討委員会で、意見交換や標準服のサンプルの試着などを行った。

今後は市教委で標準モデルを最終決定した後、市内各中学校が、新しい標準服、現行の標準服、独自の標準服、服装自由のうち、どの形式とするか、7月中旬ごろまでに決定する予定だ。

新しい標準服の組み合わせの例。各中学校は、この標準服を採用するか、現行の標準服のままとするかなどを検討する

2種類から選択可能に

北九州市 各中学校 機能性、性の多様性を考慮

北九州市では、来年度から市内の各中学校の標準服とは別の標準服を用意して、2種類の中から生徒や家庭で選べるようになる。市教委は、動きやすさや防寒、暑さ対策といった機能性の向上や、性の多様性などの観点から見直しが必要と判断した。先月は、新しい標準服の案を3種類示した。各学校で生徒の投票により代表デザインを絞り、全中学校の要望を集約して決定する。

既に市教委は2月に「北九州スタンダードタイプ」と呼ばれる新しい標準服の型と運用方法を発表。男女兼用のポロシャツにジャケットを組み合わせ、スカートかスラックスかを選べるようにする。

既存の標準服でも、ブレザーの場合は本年度から女子もスラックスを選べるようにすることを推奨している。標準服がブレザーの学校は8校ある。

市教委は昨年度、有識者や校長会などで組織する市中学校標準服検討委員会を立ち上げた。12月には制服に関するアンケートを実施した。

標準服でスラックスを選んでみたいと「思う」「やや思う」と回答した市内中学校の女子生徒は、全体で46・0%だった。

保護者でも、現在着用している標準服の見直しが必要と「思う」「やや思う」と答えた割合は、全体で58・5%だった。

本校 47.9%
??
必本校 39%